

第3次静岡市総合計画  
静岡市総合戦略

評価報告書  
(抜粋)

平成29年9月

静岡市政策・施策外部評価委員会

※本資料は、平成29年9月26日に静岡市政策・施策外部評価委員会から報告された「第3次総合計画の施策及び総合戦略評価の評価」から「【第2章】総合戦略の評価」を抜粋したものである。

平成 29 年 9 月 26 日

静岡市長 田 辺 信 宏 様

第 1 期静岡市政策・施策外部評価委員会  
委員長 小 櫻 義 明

第 3 次総合計画の施策及び総合戦略の評価について（報告）

標記の件について、本委員会として慎重に審議し、評価をとりまとめましたので報告します。

## はじめに

本評価報告書は、市が現在取り組んでいる「第3次総合計画」と「総合戦略」を着実に推進するため、「第3次総合計画」及び「総合戦略」の施策や取組実績について市当局からの説明を受け、委員会委員の認識の共有化を図り、延べ11回の審議を重ね、委員会の総意としてまとめたものです。

我が国の総人口並びに年齢構成等の人口構造は大きく変化しており、本市においても人口減少、少子高齢化の進行に伴い、市税等の減収が見込まれる一方、社会保障費が年々増加するなど、今後も厳しい財政状況が続く見通しとなっています。

このような中、『世界に輝く静岡』の実現をまちづくりの目標に掲げた「第3次総合計画」が平成27年度にスタートし、市民が市政に寄せる期待は益々大きなものになっています。

また、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした地方創生を進めるため、「2025年に総人口70万人維持」の実現に向けた「総合戦略」に取り組むことで、地域経済の活性化や、持続可能な市政運営につなげていくことが求められています。

こうした状況の中で、本委員会では「第3次総合計画」及び「総合戦略」における施策の成果や達成状況、指標（KPI）の的確性、主要事業の必要性、効率性などを評価・検証するほか、施策推進のための今後の方向性についても活発な議論と検討を行い、本報告書をまとめました。

特に、成果指標については、昨年の本委員会での指摘を受け、見直しが行われていましたが、更なる見直し、改善の必要性を感じたため、評価結果に併せて、改めて言及しています。

今後は、本報告書に基づき、「第3次総合計画」及び「総合戦略」の見直し、改善を図ることで、より質の高い行政サービスの提供と地域経済の活性化に繋げるほか、長期的な展望に立ち、市民目線を重視した積極的かつ大胆な施策展開が図られるよう、強く望むところであります。

平成29年9月

静岡市政策・施策外部評価委員会  
委員長 小 櫻 義 明

	ページ
【序 章】 静岡型行政評価制度の概要	・・・ 1
1. 静岡型行政評価制度とは	・・・ 2
(1) 静岡型行政評価制度の特徴	・・・ 2
(2) 政策(施策)における2次評価の流れ	・・・ 3
(3) 政策(施策)評価のスケジュールと活用	・・・ 3
【第1章】 第3次総合計画の施策評価	・・・ 5
1. 第3次総合計画の体系(分野-政策-施策)	・・・ 6
2. 施策評価	・・・ 7
(1) 評価方法	・・・ 7
① 評価対象施策の選定	・・・ 7
② 評価基準、評価項目	・・・ 8
(2) 評価結果	・・・ 9
① 施策評価の総括	・・・ 9
② 各施策の評価結果	・・・ 10
【第2章】 総合戦略の評価	・・・ 65
1. 総合戦略の体系	・・・ 66
2. 総合戦略評価	・・・ 67
(1) 評価方法	・・・ 67
① 評価対象の選定	・・・ 67
② 評価基準、評価項目	・・・ 68
(2) 評価結果	・・・ 69
① 評価結果の概要	・・・ 69
② 交付金対象事業の評価結果	・・・ 70
③ 戦略の評価結果	・・・ 82
[委員名簿・審議経緯]	・・・ 103

## 【第2章】

# 総合戦略の評価

## 1. 総合戦略の体系

「総合戦略」は、6つの戦略体系ごとに第3次総合計画実施計画掲載事業で構成する19の施策（重点事業）を位置づけ、「基本目標」及び「KPI（重要業績評価指標）」を設定している。

### 2025年に総人口70万人を維持

#### 1 「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす

- 重点事業①：「まちは劇場」推進事業  
②：徳川家康公400+事業  
③：観光交流活性化推進事業

#### 2 「ひと」を育て、「まち」を活性化する

- 重点事業①：しずおか学生等就職サポート事業  
②：産学官連携による人材育成COC+推進事業

#### 3 「しごと」を産み出し、雇用を増やす

- 重点事業①：新IC周辺等産業集積推進事業  
②：企業立地推進・本社機能移転事業  
③：海洋・エネルギー産業推進事業  
④：大手製造事業所等支援事業  
⑤：静岡ブランド農水産物販路拡大事業

#### 4 移住者を呼び込み、定住を促進する

- 重点事業①：移住促進に向けた情報発信事業  
②：安心移住に向けた受入体制等充実事業  
③：中山間地域への移住に向けた支援事業

#### 5 女性・若者の活躍を支え、子育ての希望をかなえる

- 重点事業①：「しずおか女子きらっ☆」推進事業  
②：「わかもののまち」推進事業  
③：静岡あったか家族応援事業

#### 6 時代に合った「まち」をつくり、圏域の連携を深める

- 重点事業①：健康シニア笑顔いっぱい推進事業  
②：アセットマネジメント推進事業  
③：静岡中部圏広域連携推進事業

## 2. 総合戦略評価

### (1) 評価方法

#### ① 評価対象の選定

「静岡市政策・施策外部評価委員会」では、国の地方創生に係る交付金により実施した2事業及び移住を考えている首都圏在住者を中心に市の存在を認識させるための総合戦略（戦略1）の3重点事業の計5事業を評価対象として選定したうえで、「評価基準・評価項目」に基づき、2次評価（外部評価）を実施した。

#### [選定の視点]

- ・国の地方創生に呼応した新たな交付金対象事業として実施したもの
- ・移住を考えている首都圏在住者を中心に市の存在を認識させるもの
- ・平成28年度に事業に着手しているもの など

#### [評価対象施策（事業）]

##### I 地方創生に係る交付金事業

地方創生推進交付金

- ①生涯活躍のまち静岡推進事業
- ②就活よろず支援体制強化事業

##### II 戦略1：「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす

重点事業

- ①「まちは劇場」推進事業
  - ・「まちは劇場」推進事業
  - ・東静岡「アート&スポーツ／ヒロバ」開設・運営事業
  - ・「ホビーのまち静岡」推進事業
- ②徳川家康公400+（プラス）事業
  - ・「家康公が愛したまち静岡」プロジェクト（400+プロジェクト）
  - ・駿府城公園天守台発掘調査見える化事業
  - ・歴史文化施設建設事業
  - ・駿府城公園「桜の名所」づくり事業
  - ・駿府城公園再整備事業
  - ・駿府家康囲碁まつり開催事業負担金
  - ・国内都市交流事業（聖一国師顕彰会事業等）
- ③観光交流活性化推進事業
  - ・官民連携インバウンド誘致推進事業
  - ・清水港客船誘致の推進
  - ・有度山フレンドシップ協定の推進
  - ・MICE誘致の推進（キーパーソン訪問、招聘事業）
  - ・静岡市都市認知度向上事業
  - ・日本平公園整備事業
  - ・東京オリンピック・パラリンピックメダルケース等提案事業
  - ・マチナカお買い物マップ作成配布事業
  - ・静岡都市圏広域DMO推進事業
  - ・ラグビーワールドカップ合宿等誘致事業
  - ・オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業
  - ・「ホビーのまち静岡」推進事業（再掲）
  - ・ホビーショー開催補助事業

②評価基準・評価項目（※総合計画を総合戦略に置き換え評価）

[評価基準]

「指標で表す成果」と「指標以外の成果」、施策を構成する主要事業の達成状況を踏まえた総合的な評価基準により、施策評価を実施した。

評価区分	内容	評価の視点
S	施策の目的が十分に達成されている	・ 総合計画策定時に立てた施策目的が十分に達成された状態にある。 ・ 施策推進による顕著な成果が見られる。
A	施策の目的が達成されている	・ 総合計画策定時に立てた施策目的が概ね達成された状態にある。 ・ 実績や事業費に見合った十分な成果が出ている。 など
B	施策の目的があまり達成されていない	・ 総合計画策定時の施策目的が達成されているとはいえない状態にある。 ・ 実績や事業費に比して成果がやや低い。 など
C	施策の目的が達成されていない	・ 総合計画策定時に立てた施策目的がまったく達成されていない。 ・ 実績や事業費に見合った成果が出ていない。 など

[評価項目]

施策及び主要事業等については、次の評価項目及び評価の視点から評価を実施した。

項目	評価の視点
1. 施策	指標及び事業効果等を踏まえ、施策の目的が達成されているか、総合評価を行う。
(1) 指標等の達成状況・成果の確認	・ 施策(戦略)の指標・KPI(数値目標)が達成されているか。(H28 年度末時点目標・進捗状況) ・ 指標の達成状況以外で施策の目的達成のための成果が表われているか。
(2) 指標(KPI)の的確性	・ 施策(総合戦略)目標の達成状況を図る指標として適切なアウトカム指標となっているか、また、適切な指標として代替する指標はなにか。
2. 主要事業	施策目的を達成するため、主要事業の成果や実績を踏まえ、必要性、代替手段などについて評価を行う
(1) 必要性・有効性・効率性・経済性・競争性・実施主体・事業規模(予算)	・ 施策目的や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要な事業か、また、必要性は薄れていないか。 ・ 事業等の効果は十分に発揮しているか。また、事業の成果は、施策(総合戦略)目的の達成に貢献しているか。 ・ 施策(総合戦略)目的を達成するために効率的な手法により事業等が実施されているか。 ・ 最も効果的・経済的な手法がとられているか。また、他都市や民間企業と比較し競争性が確保されているか。 ・ 事業効果を得るために、適切な実施主体(市・民間・NPO など)となっているか、また、市が実施すべきか。 ・ 事業成果や必要性を踏まえ、事業規模(予算)が適切であるか。
(2) その他	・ その他委員が必要と判断した視点
3. 1次評価結果を踏まえた今後の方向性	3次総を達成、加速させるために必要な事業や取組について意見を伺う
(1) 現状の把握・分析、課題、対応策	・ 施策や主要事業の成果を的確に捉え、現状の把握・分析を行い、課題を認識し、対応策が検討されているか。
(2) 今後の方向性(意見・提言)	・ 3次総や施策を推進するために何が必要か。今後、推進する必要がある事業などへの意見・提言



(2) 評価結果

① 評価結果の概要

本委員会における、施策評価結果の概要については、以下のとおりである。

なお、個々の評価結果については、次頁以降に示すため、本委員会からの評価や意見を踏まえ、今後は総合戦略の見直し・改善を図ることで、地域経済の活性化や、持続可能な市政運営につながるよう、積極的に取り組んでいただきたい。

<地方創生推進交付金について>

施策（事業）名	1次評価 （内部）	2次評価 （外部）
生涯活躍のまち静岡推進事業	A	A
就活よろず支援体制強化事業	A	A

<総合戦略（戦略1：「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす）について>

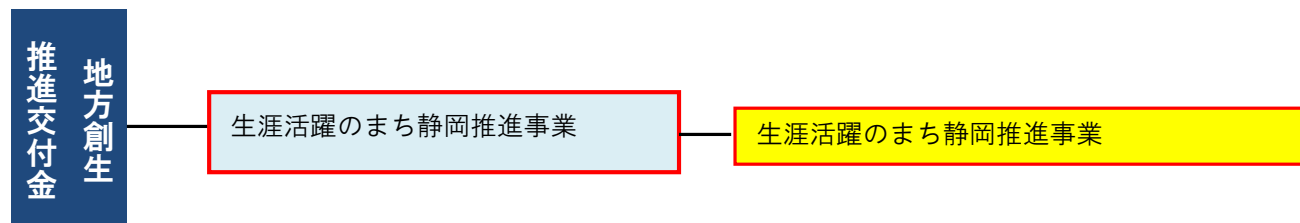
施策（重点事業）名	1次評価 （内部）	2次評価 （外部）
「まちは劇場」推進事業	A	A
徳川家康公400+（プラス）事業	A	A
観光交流活性化推進事業	A	A

②交付金対象事業の評価結果

交付金対象事業名「生涯活躍のまち静岡推進事業」

[評価対象事業の体系]

(交付金の種類) (交付対象事業名) (事業名)



[事業]

事業名	地方創生として目指す将来像
生涯活躍のまち静岡推進事業	<p>静岡市の人口は、1990年の73.9万人をピークに減少し続け、2010年には71.6万人となり、2020年には67.9万人、2040年には55.9万人になると推計されていることから、人口減少による地域の活力低下が課題となっている。</p> <p>一方で、本市は、温暖な気候、豊かな自然環境・海山の食資源、政令指定都市でトップクラスの健康寿命、新幹線ひかり号で1時間という首都圏へのアクセスの良さなど、魅力的な地域資源を豊富に有している。</p> <p>このようなことから、本市では地域の強みを活かしつつ、中高年者が元気な段階から、住みたい場所に居住し、互いに助け合いくらしやすさを実感しながら、社会参加や生きがい創出・健康づくりを行うことにより、心身両面から健康寿命を伸ばすことができる「生涯活躍のまち静岡」の実現に取り組む。</p>

1次評価結果（H29年3月末時点）

[成果の状況]

区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
基本目標	互いに助け合う暮らしやすいまちだと思ふ市民の割合	27	36% (25年)	38%	—	—	—
		28		40%	—	—	—
		29		42%			
		30		44%			
		31		44%以上			
成果指標	アクティブシニアの移住者数	27	—	—	—	—	—
		28		0人	0人	—	—
		29		0人			
		30		20人			
		31		20人以上			
	K P I シニア層の移住相談件数	27	—	—	—	—	—
		28		120件	140件	116.7%	s
		29		150件			
		30		200件			
		31		200件以上			
	生涯活躍のまち静岡推進協議会開催数	27	—	—	—	—	—
		28		3回	3回	100%	a
		29		10回			
		30		6回			
		31		6回			
指標以外の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の現状、課題、取組案を話し合う「生涯活躍のまち静岡準備協議会」のメンバー選考では、地域代表、事業関係者、大学、社会福祉法人、東京移住支援センター相談員、行政職員等、具体的意見が出るメンバーとなるよう調整するとともに、各団体間の今後の連携も視野に入れ人選を行った。構成員数37名</li> <li>駿河「共生」地区市場性調査の実施 市内業者3社、市外業者4社合計7社と幅広く業者を選定し、ヒアリング調査を実施した。</li> <li>平成28年度に地方創生拠点整備交付金の認定を受け、駿河「共生」地区の地域交流拠点（地域福祉の拠点も兼ねる）の整備時期を前倒しすることとした。</li> </ul>						

※評価基準 [ s : 105%以上、 a : 95%以上 105%未満、 b : 85%以上 95%未満、 c : 70%以上 85%未満、 d : 70%未満 ]

[総合評価]

評価	A〔事業の目的が達成されている〕
理由	<p>本事業は、3年間で事業実施期間として交付金を受けており、1年目となる平成28年度は、「生涯活躍のまち（CCRC）静岡構想推進計画（地域再生計画）の策定」、「地域再生推進法人候補との協議、地域再生推進法人の選定」を予定していた。</p> <p>「生涯活躍のまち（CCRC）静岡構想推進計画（地域再生計画）」については、国と協議を重ね、平成28年9月に申請し、同年12月に認定公表された。</p> <p>「地域再生推進法人候補との協議、地域再生推進法人の選定」については、地域再生計画認定後、再開発事業関係者、社会福祉協議会等と調整を行った。調整後、地域の現状、課題、取組案を話し合う「生涯活躍のまち静岡準備協議会」を設置した。</p> <p>同協議会のメンバー選考では、地域代表、事業関係者、大学、社会福祉法人、東京移住支援センター相談員、行政職員等、具体的意見が出るメンバーとなるよう調整するとともに、各団体間の今後の連携も視野に入れた人選を行った。想定以上のシニア層の移住相談を受けながら、「生涯活躍のまち静岡」の実現に向けた協議を着実に進め、今後の論点を整理している。</p> <p>また、駿河「共生」地区の推進にあたっては、地方創生拠点整備交付金の採択を受け、取組を加速している。</p> <p>3年間の事業計画に遅れることなく進捗し、CCRCの円滑な推進に向けた基礎ができた。</p>

## 2次評価結果

### ◆事業評価

[総合評価]

評価	A〔事業の目的が達成されている〕
総括	<p>やるべきことはやれている、市が想定する「あってほしいかたち」にかなっており、今後、活躍の場がきちんとできる施策を考えるという視点から事業の目的が達成されていると評価した。</p> <p>今後の事業展開にあたっては、CCRCの存在が移住につながるという理論をしっかり組み立てるとともに、本当にアクティブなシニアとは何か明確にし、民間や地権者、移住者にインセンティブを与えながら戦略的に進めることが必要である。</p> <p>静岡市の特性、特徴、静岡市の存在意義というものを、さらに際立たせ取り組んでいただきたい。</p>

### ◆交付金対象事業

[交付金対象事業に対する評価・意見]

<p>(事業の背景と現状の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖な気候や利便性などをメリットとして呉服町へ移住者を呼び込むのであれば、一般的な移住施策と同じであり、CCRC 構想の中で進める移住には、それとの差別化が必要である。</li> <li>・生涯活躍と継続的なケア、介護がどのように結び付いているのか明確にすることが必要である。</li> <li>・CCRC がここにあるから、静岡市に移り住む、という理論の組み立てを明確にすることが必要である。</li> <li>・アクティブシニアというものが、何を求めているのか、本当に稼ぎたいのか、アルバイトでもいいのではないのか、あるいは生涯学習をやりたいと思っているのか、本当にアクティブなシニアとは何かということを考え直していただきたい。</li> <li>・「駿河共生」と「まち」の2つのテーマについて、駿河共生を移住促進の看板促進構想、まちは流動人口の誘因手段と考えるなど、明確にすることが必要である。</li> <li>・まちは官能的で、駿河共生は整然、画一的、まちのターゲットは富裕層、駿河共生はインテリ層。まちは多様性、駿河共生は通俗性（わかりやすさ）。まちは観光客と住民との交流をすること、駿河共生は地域意識が共有できているというところ。まちはホスピタリティが重要だが、駿河共生は個の尊重が必要、まちは伝統遺産みたいなものをネタにする、駿河共生は海・富士山の景観、そういう開かれたもの、まちはあるものを探す、駿河共生はないものを作る。まちは詰め込む、駿河共生はそれに対して解放や広がりを持たせる、まちは車不要、駿河共生は市民農園というように「まち」と「駿河共生」の区分けを検討いただきたい。</li> <li>・「まち」と「駿河共生」のテーマを区分けしないで、ブレインストーミングで出されたアイデアをすべて盛り込んでいる。取捨選択が必要である。</li> </ul>
---

- ・生涯活躍というよりは、シニアをとにかく呼び込むということで、活躍の場が見えてこないのを検討いただきたい。
  - ・施設型として呉服町、タウン型として駿河区役所周辺、エリア型として三保周辺の3つのタイプが挙げられているが、一般的な区分は、地方型、近郊型、郊外型であり、そこの違いを明確にすることが必要である。
  - ・呉服町と駿河区役所は、静岡市の中で人口がある程度維持され、活性化している。一番問題がないところにCCRCを持ってくる理由を明確にすることが必要である。
  - ・静岡市の中心部の再開発ビルに、有料老人ホームを持ってくる理由を明確にすることが必要である。
  - ・CCRCは地方への人の流れを作る施策であることから、首都圏の介護離職者問題への対応として、介護離職者、あるいは介護離職予防事業と連携して、静岡に来れば、仕事をしながら介護ができるという形を実現してほしい。
  - ・呉服町の真ん中で静岡らしさを十分に味わえることを考え、事業を展開いただきたい。
  - ・事業のターゲットを明確にすることが必要である。
  - ・南部図書館の2階に駿河共生の交流拠点をつくる理由を明確にすることが必要である。
- (事業指標の的確性)
- ・成果指標としてアクティブシニアの移住者数の数値設定が低いので検討いただきたい。
  - ・5年に1度しか把握できない指標を3年間の計画の目標に設定することは不適切だと思う。指標は毎年数値の確認ができるものを設定すべきである。
  - ・生涯活躍のまちとうたっているが、いかにシニアを呼び込むかという指標だけに終始していることから、活躍というのを、指標として検討いただきたい。

### ◆今後の方向性

#### [交付金対象事業に対する今後の方向性について]

- ・アクティブシニアというのは、リタイアして、まだ元気であって、そこで様々な創造的なものを行うことから、呉服町の上に老人ホームを作るというのであれば、静岡市は隠居文化創造都市であると宣言して、アクティブな、クリエイティブなシニア層というのを呼び込み、地域に貢献してもらう仕組みを検討いただきたい。
- ・ブレインストーミングしたものを、全部まとめただけであることから、戦略的なものを持って事業展開いただきたい。
- ・東京や国がどういう問題を抱えていて、その問題に対して静岡市が貢献できることは何なのかを考えて事業展開いただきたい。

- ・地域の実態や地域の助け合いなどをもっと重点に置くとともに、これを、他地域にいかを広げていくのか、駿河区全体にどのように広げていくのか。そういう指摘や方針を検討いただきたい。
- ・事業の推進主体には、地区社協であれば、地区社協に入ってもらうべきであり、町内会長を1人入れておけば大丈夫だろう、という発想は通用しない。町内会と、自治会町内会の全加盟型地縁組織と、社協は組織が異なることから、メンバーを再考することが必要である。
- ・駿河地域で行うとしたら、S型デイの蓄積を活かし、居場所とか、でん伝体操とか、買い物支援とか、様々な形でS型デイを見直して、多方面にどう展開していくのか、それをどうサポートしていくのか、検討いただきたい。
- ・子育て世代の、子育て支援のために、高齢者というものを組み入れて、活用していくことが必要である。高齢者と子どもたちが一緒にいられるような居場所を、提起すべきである。
- ・世代間の連携と、家族、地域の介護力をどう高めていくのか、という発想で、静岡市全体の都市ビジョンを考えていただきたい。
- ・一番大きな問題は、静岡市の中で人口減少があつて、一番、問題を抱えているのは、沿岸部と清水の中心部と山間部である。そこを活性化するような、静岡市内における地域連携の拠点として、まちと駿河共生があり、そこと連携するような仕組みを構築することが必要である。呉服町や駿河区で成功したパターンを、問題のあるところに移していくべきである。

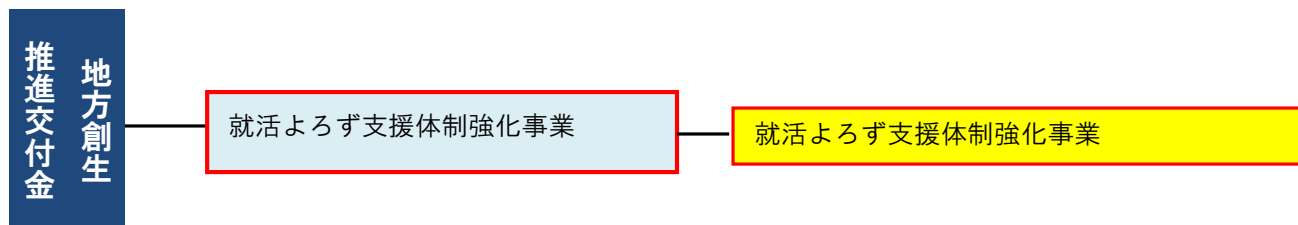
#### ◆ 1次評価結果に対する意見

- ・CCRCがここにあるから、静岡市に移り住む、という理論の組み立てを明確にすることが必要である。【再掲】
- ・アクティブシニアというものが、何を求めているのか、本当に稼ぎたいのか、アルバイトでもいいのではないのか、あるいは生涯学習をやりたいと思っているのか、本当にアクティブなシニアとは何かということを考え直していただきたい。【再掲】
- ・生涯活躍のまちとうたっているが、いかにシニアを呼び込むかという指標だけに終始していることから、活躍というのを、指標として検討いただきたい。【再掲】
- ・世代間の連携と、家族、地域の介護力をどう高めていくのか、という発想で、静岡市全体の都市ビジョンを考えていただきたい。【再掲】
- ・一番大きな問題は、静岡市の中で人口減少があつて、一番、問題を抱えているのは、沿岸部と清水の中心部と山間部である。そこを活性化するような、静岡市内における地域連携の拠点として、まちと駿河共生があり、そこと連携するような仕組みを構築することが必要である。呉服町や駿河区で成功したパターンを、問題のあるところに移していくべきである。【再掲】

交付金対象事業名「就活よろず支援体制強化事業」

[評価対象事業の体系]

(交付金の種類)                      (交付対象事業名)    (事業名)



[事業]

事業名	地方創生として目指す将来像
就活よろず支援体制強化事業	<p>人口減少が著しい中、静岡市は若者の市内企業への就労促進を目的とし、市内企業の詳細な情報・ネットワークを持つ静岡商工会議所とともに、若者に対する効率的な情報提供等を行うことで、「ワンストップ就労窓口」による若者と企業のマッチング強化を図っているところである。</p> <p>就活よろず支援体制強化事業（本交付金対象事業）は、UIJ ターンを志す若者をはじめ、市内企業の情報が行き届いていない若者に対する課題解決策として、市内企業の求人・採用力を高めるとともに、若者に対する支援体制の強化を図ることを目的とし、市内企業への就労促進を強力に推し進めるものである。</p>



1次評価結果（H29年3月末時点）

[成果の状況]

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価		
成果指標	基本 目標	COC+参加大学に おける県内就職率	27	45% (26年)	48%	47.3%	98.5%	a		
			28		50%	47.5%	95.0%	a		
			29		51%					
			30		53%					
			31		53%以上					
	成果指標		市内企業への 就職決定数	27	—	—	—	—	—	
				28		0人	0人	—	—	
				29		25人				
				30		35人				
				31		35人以上				
		K P I		採用面談数	27	—	—	—	—	—
					28		0回	0回	—	—
					29		180回			
					30		250回			
					31		250回以上			
			企業の改善項目の 達成率	27	—	—	—	—	—	
				28		70%	70.1%	100%	a	
				29		75%				
				30		80%				
				31		80%以上				
指標以外の 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年1月7日、商工会議所と連携し、本市へのUターンを希望する首都圏の大学3年生を対象に首都圏で開催された静岡県新卒ふるさとUターンフェアに初めて出展し、新幹線通学費貸与事業等の市の取組や市内企業の情報提供をはじめ、就職活動時のアドバイスを行うことで、首都圏の学生に対し市内就職を考える「きっかけ」を増やした。</li> <li>Uターンフェアには、23団体が出展し、102人の学生が来場した。職員が積極的に本市ブースへ学生を呼び込むことで、他のブースに比べ、本市への来場者数が最も多かった。</li> </ul>									

※評価基準 [ s : 105%以上、 a : 95%以上 105%未満、 b : 85%以上 95%未満、 c : 70%以上 85%未満、 d : 70%未満 ]

[総合評価]

評価	A〔事業の目的が達成されている〕
理由	<p>若者への支援体制の強化にあたっては、画一的な情報発信に留まらない、若者と企業との相互交流を目的としたサイト構築のための実施計画の作成を完了し、平成 29 年 10 月初旬のリニューアルオープンに向け、実施計画に基づく構築作業を進めている。</p> <p>企業向け求人・採用力の強化にあたっては、しずまっち登録企業等 449 社に対し実施し、対象企業の採用活動における実態の把握とともに、セミナー参加の促進を図り、企業開拓を行った。企業向けセミナーの開催は、平成 29 年 2 月中旬～3 月中旬の期間で 5 日程を開催し、34 社（42 名）の参加が得られた。平成 28 年度は基礎編として、市場理解をはじめ、採用プロセスにおけるターゲティングと差別化についてのノウハウ習得を図り、参加企業アンケートの結果としては、87%の満足度を得られた。交付金実施計画における K P I「改善達成割合」は、受講前の状況としては、46%であったが、受講後には、70.1%の結果を得、目標値である 70%を達成することができ、且つ市内企業の採用力強化に向けた改善が図れた。企業向け求人・採用活動の支援としては、大手企業の就職情報サイト内に静岡市特集ページを作成し、採用広告を掲出（22 求人）した。参加企業は、実践機会を通じ、閲覧者及び応募者の傾向等を掴むことができ、今後の採用活動におけるマーケティングデータを獲得している。</p> <p>さらに、平成 29 年度の新規事業として、学生の保護者を新たなターゲットに設定し、セミナーを開催するとともに、本市からの進学者が多い首都圏の大学に連携を働きかけ、市内企業の情報をターゲットへ効率的に伝える新たな取組を行うことで、市内企業への就労を促進する。</p> <p>以上のことを総合的に勘案し、事業の目的が達成されていると評価する。</p>

## 2次評価結果

### ◆事業評価

[総合評価]

評価	A〔事業の目的が達成されている〕
総括	<p>学生と企業が、就職マッチングできるように精力的に取り組まれており、今後、本質の奥深いところにいけるか、どうかということも期待して、事業の目的が達成されていると評価した。</p> <p>特に、新しずまっちは、育休の取得や女性管理職の割合などサイト内の企業情報の項目が良く考えられており、さらに、サイト内で学生と企業の双方向の交流ができる仕組みは学生の地元就職を促す施策としてその効果を期待している。</p> <p>今後、このサイトをどのように学生に周知するかが重要になってくる。また、市外に転出した若者に対し、Uターン就職を考える窓口としての役割も果たしていただきたい。新しずまっちのサイト内の充実と新しずまっちそのものの情報発信に積極的に取り組まれない。</p>

### ◆交付金対象事業

[交付金対象事業に対する評価・意見]

<p>(事業の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に「どのような企業があって、どのようなことをやっているのか」、ということが分かるサイトができるというのは、非常に有効である。</li> <li>・学生側がかなりイニシアティブをとって、企業にアプローチするのであれば、素晴らしいと思う。学生にとって就職は非常に大切だが、いくつも受けて、受かったとか、受からなかったとか、そういうことだけに終始している。学生が集める事前情報の中には正しくないものも多いため、そういうところを、企業の側から事前に発信・意見交換できるように進化していけば、まさにSである。</li> <li>・新しずまっちは、非常に良く考えられている。育休の取得や女性管理職の割合などサイト内企業情報の項目も良く考えられている。また、双方向の交流ということで、志望動機なしに、エントリー・シートなしに、学生と企業がコミュニケーションできる場が設定されていることが、非常に良い。</li> <li>・行政が、学生と企業に火を付けるような言葉や方法論を身に付けてできるようになれば、もはや、独自のプランニングというか、両者に喜ばれるものになるのではないかと大いに期待している。</li> </ul> <p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援は、自己分析、自分の生涯というものを振り返らせることである。これは、大学など教育機関の問題であり、外から立ち入ってやることは難しい。外からの就活支援というものを考えるならば、静岡で働くということはどういうことなのか、静岡暮らし、静岡ライフという、東京ではできない暮らしが、静岡ではできることを発信することが必要である。</li> <li>・自分で良いなと思ったら、自分で新しく仕事を創る、創業できるという起業、創業の夢みたいなものを、静岡で行えば実現できる、このようなチャンス、チャレンジができる、ということを若者に伝えることが重要である。</li> </ul>
---

- ・女性が比較的、活躍できる企業や産休とか、結婚して、子育てをしながらでも仕事ができることを保障している企業はこういうところがあるなどの情報発信が必要である。
- ・企業には学生の生き方やニーズに応じた対応が求められ、残業が少ないなどのワーク・ライフ・バランスの充実、結婚・出産・育児への制度としてのフォローが求められ、さらに、それらについてのアピールが必要である。
- ・企業には、学生に一生ここで働いてもらうと言うよりも、キャリアを積み、自分で新しく起業、創業ができ、それを会社が支援するというのを売り込むなど企業の経営とか実態とかに応じた情報提供が必要である。
- ・企業研究より、職業研究が重要である。例えば、介護、あるいは営業という仕事はどのようなものなのか、サービス産業は窓口での客商売のように短期的に相手を幸せにする仕事と、教育や福祉などのようにその人と本音のところで心を通わせる仕事の性格の違うものが同じ感情労働となっていることなど、この仕事はこのような仕事であり、このような能力が求められている、という、企業研究ではなく、職業研究みたいなものを提供していただきたい。
- ・新しすぎずで果たして、どれだけのことが伝えられるのか。今、インターネットでは、口コミ情報が盛んで、個別企業を検索すれば、口コミ情報でその企業の実態がわかる。そこで働いている人、それから退職した人の情報がわかる。新しすぎずも、紋切型の提供ではなくて、口コミ情報ではこのようなことが言われて、これに対する企業としての正式な回答はどのようなのかなど、裏と表を組み合わせるような情報発信に取り組んでいただきたい。

### ◆今後の方向性

[交付金対象事業に対する今後の方向性について]

- ・静岡暮らしというのは、単にそこに就職するだけでいい、ということではなくて、もっと新しい、自分の人生を自分で切り開く。特に若い女性というのは、自分で仕事を起こせる。すなわち、結婚して、子育てをしながら、インターネットを使って、新しい仕事をする。これが、若い女性にとっての魅力的な地域である。そのようなことを、保障することが必要である。
- ・企業は、若者をどう確保するかだけではなくて、どう育てていくか、が非常に大きな課題になってきている。そういう意味では、単に就職できれば終わりではなくて、就職した後の手当てみたいなものが、企業に対してフォローできるかどうか検討が必要である。
- ・就活よろず支援と言ったときに、単なる情報提供ではなくて、学生の自己分析、自分の生き方、すなわち自分は静岡に向いているかどうか、あるいは、静岡で暮らしたら、どのような暮らしをしたいのか、自分の人生設計、ライフプラン、そのようなものに対する支援が必要である。
- ・企業研究より、職業研究が重要である。例えば、介護、あるいは営業という仕事はどのようなものなのか、サービス産業は窓口での客商売のように短期的に相手を幸せにする仕事と、教育や福祉などのようにその人と本音のところで心を通わせる仕事の性格の違うものが同じ感情労働となっていることなど、この仕事はこのような仕事であり、このような能力が求められている、という、企業研究ではなく、職業研究みたいなものを提供していただきたい。【再掲】

- ・ 今後、新しずまっちを学生にどう周知するのが問題となる。しっかり検討し、さらに積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ 静岡市で働くことの良さというのは学生になかなか伝わらない。新卒の学生に力をいれてアプローチしているが、今は首都圏に就職しても良いと思う。ただ、5年、10年経って、窮地に追い込まれたときに、もう一度、このサイトに来よう、と思えるような窓口として新しずまっちを運営していただきたい。

◆ 1次評価結果に対する意見

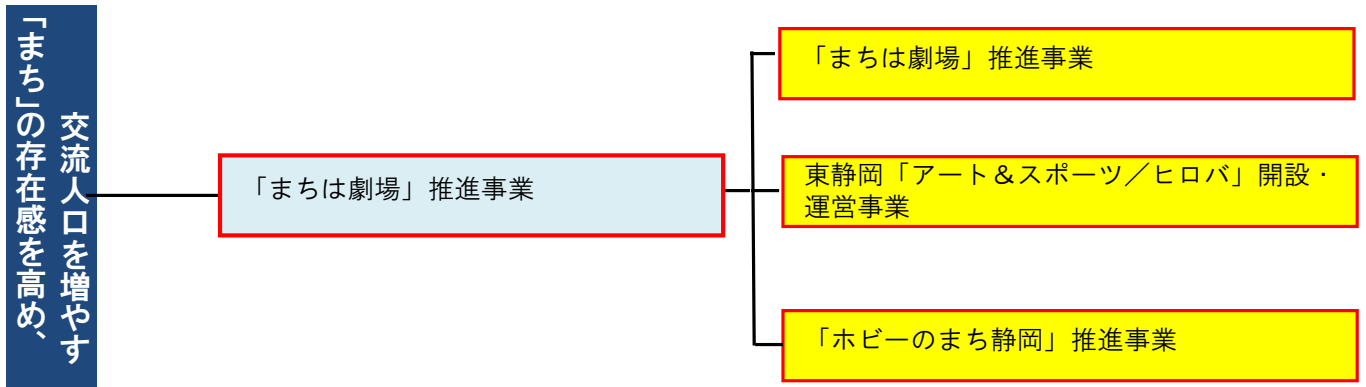
- ・ 新しずまच्छは、非常に良く考えられている。育休の取得や女性管理職の割合などサイト内企業情報の項目も良く考えられている。また、双方向の交流ということで、志望動機なしに、エントリーシートなしに、学生と企業がコミュニケーションできる場が設定されていることが、非常に良い。【再掲】
- ・ 今後、新しずまच्छを学生にどう周知するのが問題となる。しっかり検討し、さらに積極的に取り組んでいただきたい。【再掲】
- ・ 行政が、学生と企業に火を付けるような言葉や方法論を身に付けてできるようになれば、もはや、独自のプランニングというか、両者に喜ばれるものになるのではないかと大いに期待している。【再掲】
- ・ 静岡市で働くことの良さというのは学生になかなか伝わらない。新卒の学生に力をいれてアプローチしているが、今は首都圏に就職しても良いと思う。ただ、5年、10年経って、窮地に追い込まれたときに、もう一度、このサイトに来よう、と思えるような窓口として新しずまच्छを運営していただきたい。【再掲】
- ・ 新しずまच्छで果たして、どれだけのことが伝えられるのか。今、インターネットでは、口コミ情報が盛んで、個別企業を検索すれば、口コミ情報でその企業の実態がわかる。そこで働いている人、それから退職した人の情報がわかる。新しずまच्छも、紋切型の提供ではなくて、口コミ情報ではこのようなことが言われて、これに対する企業としての正式な回答はどうかなど、裏と表を組み合わせるような情報発信に取り組んでいただきたい。【再掲】

③戦略の評価結果

重点事業名「『まちは劇場』推進事業」

[評価対象事業の体系]

(戦略) (重点事業名) (事業名)



[事業]

事業名	目的
『まちは劇場』推進事業	<p>文化芸術の持つ創造性を活用し、ヨーロッパの都市のように、歩くだけで「わくわくドキドキ」するまち、本市に暮らす誇りと喜びを感じることのできるまちを目指す取組。日常生活のいつもの場所を劇場に見立て、まちの随所で、いつでもどこでも音楽やパフォーミングアーツ、現代アートなどが楽しめる仕掛けづくりを通じて、アーティストと市民が一体となって取り組む、創造的なまちづくりの魅力を国内外に発信することで、インバウンド効果を生み、交流人口の増加による経済的な効果をもたらすことを狙いとする。</p> <p>また、併せて、大道芸で培われた市民のパフォーミングアーツに対する寛容性や敢えて制約を設けない「東静岡アート&amp;スポーツ/ヒロバ」での現代アートプロジェクトなど、本市ならではの環境の下、活動することの快適さを参加アーティストからの情報拡散、口コミ効果により「創造的なことに理解のあるまち」としての本市イメージの定着も狙いとする。</p>
東静岡「アート&スポーツ/ヒロバ」開設・運営事業	<p>3次総で「文化・スポーツの殿堂」として位置付けられた東静岡市有地において、本格的な整備が始まるまでの間に、「賑わいづくりの実験場」として、ローラースポーツやアートのイベント等を実施するための整備を行う。</p>
『ホビーのまち静岡』推進事業	<p>市の主要な地場産業であるプラモデル業界の集積を活かし「ホビーのまち静岡」として国内外へ情報発信することで市のブランド化及び地域経済の活性化を図る。</p>

【第2章】総合戦略の評価

1次評価結果（H29年3月末時点）

[成果の状況]

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
指標で 表す成果	基本目標	市区町村魅力度 ランキング (1,000市区町村中)	27	85位 (25年度)	80位	102位	—	—
			28		82位	109位	—	—
			29		70位			
			30		67位			
			31		67位以上			
		関連施設・イベント 入込客数	27	8,932千人 (22年-25 年の平均)	9,060千人	—	—	—
			28		9,188千人	—	—	—
			29		9,316千人			
			30		9,443千人			
			31		9,443千人 以上			
		ぜひまた訪れたいと 思う来訪者の割合	27	56.9% (26年度)	57.9%	—	—	—
			28		59.0%	—	—	—
			29		60.0%			
			30		61.0%			
			31		61.0% 以上			
	K P I	中心市街地の賑わいや 魅力が増したと感じる 市民の割合	27	静岡46.5% 清水7.0% (25年度)	静岡 47.4% 清水7.8%	—	—	—
			28		静岡 48.3% 清水8.5%	—	—	—
			29		静岡 49.2% 清水9.3%			
			30		静岡50% 清水10%			
			31		静岡50% 以上 清水10% 以上			
関連施設・イベント 入込客数（駿府城公園、 静岡まつり等）		27	2,116千人 (22年-25 年の平均)	2,169千人	2,195千人	101.2%	a	
		28		2,222千人	2,252千人	101.4%	a	
		29		2,275千人				
		30		2,330千人				
		31		2,330千人 以上				
関連施設・イベント 入込客数（静岡ホビー ショー・ホビースクウ ェア等）		27	212千人 (22年-25 年の平均)	216千人	239千人	110.6%	s	
		28		243千人	258千人	106.1%	s	
		29		247千人				
		30		252千人				
		31		252千人 以上				



【第2章】総合戦略の評価

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
指標で 表す成果	K P I	外国人延べ宿泊者数	27	100千人 (27年度)	—	—	—	—
			28		120千人	—	—	—
			29		140千人			
			30		160千人			
			31		160千人 以上			
		観光・ブランド産業 市内就業者数	27	50.8千人 (26年度)	51.8千人	—	—	—
			28		52.7千人	—	—	—
			29		53.7千人			
			30		54.6千人			
			31		54.6千人 以上			
指標以外の 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術文化事業来場者数【4年で延べ1,121,400人】(人/年)では、平成28年度の目標284,400人対し、384,532人となった。</li> <li>・中心市街地主要イベント入込客数(大道芸ワールドカップ、シズオカ×カンヌウィーク等)(千人/年)では、平成28年度の目標3,914人に対し、4,517人となった。</li> <li>・静岡ホビーショー来場者数では、平成28年度の目標82,000人に対し、82,500人となった。</li> <li>・クリスマスフェスタ来場者数では、平成28年度の目標43,000人に対し、43,000人となった。</li> <li>・静岡ホビースクエア来場者数では、平成28年度の目標50,000人に対し、43,149人となった。</li> <li>・創造都市INDEXにおける創造都市スコア(21都市中)では、平成27年度第2位だった。</li> <li>・センシュアス・シティ・ランキング(134市区)では、平成27年度第12位だった。</li> <li>・静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター(CCC)が「まちは劇場」を担う一施設としてH28年4月オープン 入館者 9,694人</li> <li>・静岡デザインフェスティバル 11/28-12/25 10か所の店舗にクリエイターがオリジナルのクリスマスツリーを展開</li> <li>・「まちは劇場」ロゴ作成の協力</li> </ul>							

※評価基準 [ s : 105%以上、 a : 95%以上 105%未満、 b : 85%以上 95%未満、 c : 70%以上 85%未満、 d : 70%未満 ]

[総合評価]

評価	A [重点事業の目的が達成されている]
理由	<p>重点事業の個々の目標は達成されている。</p> <p>特に「まちは劇場」と東静岡は新規事業であり、順調な滑り出しと判断している。</p> <p>また、各事業実施においては、民間の力を大きく得ており、「参加」するアクティブな市民とともにまちづくりが進められている。</p>



## 2次評価結果

### ◆重点事業評価

[総合評価]

評価	A〔重点事業の目的が達成されている〕
総括	<p>スケートボードという実績の少ない新しいスポーツに目をつけた静岡市の先進性や決断、市として攻めの施策を打っていることなどから、重点事業の目的が達成されていると評価した。</p> <p>大目標として70万人維持を掲げていることから、交流人口を増やして、いかに定住人口に繋げるのか議論を重ね、既存の事業を整理しながら、新しい事業を積極的に展開いただきたい。</p>

### ◆重点事業

[重点事業に対する評価・意見]

<p>(事業の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東静岡駅前を多目的な広場として活用している。スケートボードという実績の少ない新しいスポーツに目をつけた静岡市の先進性は光るものがある。これからメジャーになっていくのではないかと大切に育てていけばスケートボードの聖地になるかも知れない。行政として自信を持って新しい事業に果敢に挑戦する攻めの静岡市行政を目指していただきたい。</li> </ul> <p>(事業の情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホビースクエアは、入口が分かりにくいので、もっと分かりやすくできないか。入場料が無料で、全国に誇れるものに触れられるのは、ホビーのまち静岡ならではの強みである。アピールする行政の責任があるのではないかと。</li> </ul> <p>(事業指標の的確性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・判断の根拠となる成果の状況に数値が入っていないのでどのようにすればよいか分からない。</li> <li>・2つの指標しか自己評価が出ていないので評価が難しい。数値目標のロジックはしっかり構築されたものではないので、数値目標にあまりこだわらず、普段情報に触れている中でこの事業を評価することになる。</li> <li>・行政施策としては、交流人口を拡大するという目的があるはずであり、民間活力を刺激するような合意形成の中で事業が成立していくと考える。数値で表しづらい部分があると思うので、関わっている業界で今こういう状況であるというのがあれば説明でフォローすることが必要である。</li> <li>・イベント入込客数が6%増えたからS評価と言えるのか。民間企業であれば15~30%上がらないと利益確保できない。事業の内容としては、先進的でチャレンジングな気がするが、今一つクオリティが低い。大道芸があるから、エンターテイメントがあるから「まちは劇場」とイメージするのではなく、市民一人ひとりにとっての舞台が静岡市であり、自己実現を図れる仕組みが静岡市の「まちは劇場」という施策として実施され、市民生涯学習の実践空間としての「まちは劇場」として、クオリティの高い理想を掲げてほしい。</li> </ul>
---

- ・基本目標の「市区町村魅力度ランキング」を調べると、1位は函館で観光客は増えているが定住人口に繋がっていない。民間調査を調べてみると、県単位のものが多い。交流人口の視点では良いが、KPIの設定を含めて考えていただきたい。

### ◆今後の方向性

#### [重点事業に対する今後の方向性について]

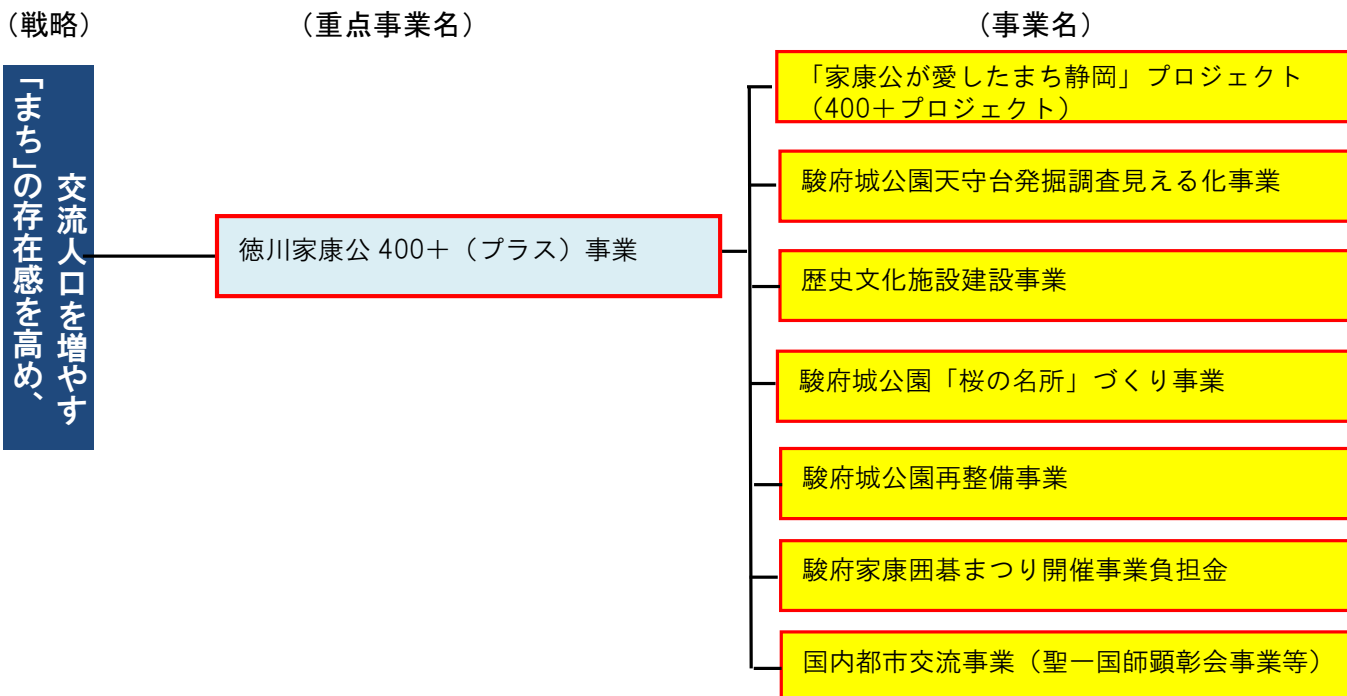
- ・「ホビーのまち」と言っても、現在のところ業界側に立っての論理であり、市民が特別にホビーが好きとか、得意、コレクターが多い、市内の至る所でホビーに触れられるとか、特別に静岡市特性は感じられない。誰もが「ホビーのまち」を実感して納得できて、静岡市の強みにするためには、従来と異なった視点、切り口からの新提案がほしい。
- ・本重点事業の切り口はとても良い。アート&スポーツ／ヒロバもホビーのまちも静岡市の属性を汲み取っていて必然性はある。どう磨いていくかが課題である。
- ・取り組まれてきた既存のものは過去の延長で、将来的に見通しがあるか分からない。ホビショーの来場者は伸びているが、模型業界の将来は厳しいという評価もある。ホビースクエアは常設展に何度も行かないので、企画展が十分できていないという課題がある。新しい企画は楽しみだが、既存のものは整理していく必要がある。
- ・大目標が70万人維持なので、交流人口を増やして、いかに定住人口に繋げるのか議論が必要。その上で、オリンピック後を見据えて東静岡をどうするか。今後ローラースポーツが静岡市で注目されるのであれば移転するのも議論が必要である。
- ・「ホビーのまちしずおか」の推進は、ニッチながらもコアなファンも多く他の都市と差別化が図れる。静岡市は静岡駅に着いて何の街か分からない。浜松市はバイクや楽器、広島駅にはマツダの車が展示されている。駅校内の駿府楽市付近に京都のお茶屋が出店しているのは如何なものか。そういう点で、まちの顔づくりを進めていただきたい。
- ・既存の企画は相当程度の予算が入っているので、精力的に取り組んでいただきたい。

◆ 1次評価結果に対する意見

- ・ 取り組まれてきた既存のものは過去の延長で、将来的に見通しがあるか分からない。ホビーショーの来場者は伸びているが、模型業界の将来は厳しいという評価もある。ホビースクエアは常設展に何度も行かないので、企画展が十分できていないという課題がある。新しい企画は楽しみだが、既存ものは整理していく必要がある。【再掲】
- ・ 新しい取組もなされており心強く感じた。成功するものがどれくらいあるか分からないが、失敗も含めてチャレンジすること自体に意義がある。
- ・ 大目標が70万人維持なので、交流人口を増やして、いかに定住人口に繋げるのか議論が必要。その上で、オリンピック後を見据えて東静岡をどうするか。今後ローラースポーツが静岡市で注目されるのであれば移転するのも議論が必要である。【再掲】
- ・ 「ホビーのまちしずおか」の推進は、ニッチながらもコアなファンも多く他の都市と差別化が図れる。静岡市は静岡駅に着いて何の街か分からない。浜松市はバイクや楽器、広島駅にはマツダの車が展示されている。駅校内の駿府楽市付近に京都のお茶屋が出店しているのは如何なものか。そういう点で、まちの顔づくりを進めていただきたい。【再掲】
- ・ 基本目標の「市区町村魅力度ランキング」を調べると、1位は函館で観光客は増えているが定住人口に繋がっていない。民間調査を調べてみると、県単位のものが多い。交流人口の視点では良いが、KPIの設定を含めて考えていただきたい。【再掲】
- ・ 既存の企画は相当程度の予算が入っているので、精力的に取り組んでいただきたい。【再掲】

重点事業名「徳川家康公 400+（プラス）事業」

[評価対象事業の体系]



[事業]

事業名	目的
「家康公が愛したまち静岡」プロジェクト（400+プロジェクト）	平成 27 年度の徳川家康公顕彰四百年記念事業を 400+プロジェクトとして継承し、歴史文化のまちづくりを推進するため、家康公が愛したまち静岡の情報を発信し、市民意識の醸成を図る。
駿府城公園天守台発掘調査見える化事業	駿府城再建に向けた駿府城跡天守台の学術的なデータを得るために実施する天守台発掘調査を、歴史学習の場、観光資源としても活用し、駿府城及び天守台への関心を高める。
歴史文化施設建設事業	輝かしい静岡の歴史文化を保存・伝承し、その魅力を市内外へ発信する「歴史文化のまち」の中核となる歴史文化施設の建設に向けた取組みを行う。
駿府城公園「桜の名所」づくり事業	駿府城公園を歴史的な観光名所の核に位置付け、「家康公四百年祭」を契機とし、更なる賑わい創出に向けて、駿府城公園及びその周辺（三の丸）約 47.7ha を、1000 本の桜により東海随一の「桜の名所」となるよう、桜の植樹や回廊整備などを推進する。
駿府城公園再整備事業	歴史文化の核となる駿府城公園において、天守台跡地の発掘調査を行い、調査結果を踏まえた天守台跡地の整備方針の検討を行う。
駿府家康囲碁まつり開催事業負担金	本市は家康公にまつわる多彩な歴史資源を有している。2015 年に実施した「家康公 400 年祭」を契機とした市民の歴史意識の高まりを一過性のものとしなため、継続的な取り組みが必要と考える。 家康公が近世囲碁の発展と振興に絶大な貢献を果たしている。地域活性化を更に推進していくため、家康公の名を冠した「第 2 回駿府家康囲碁まつり」を開催し、本市と家康公、囲碁の繋がりを広く発信するとともに、交流人口の増加を図る。
国内都市交流事業（聖一国師顕彰会事業等）	静岡市に生まれ、鎌倉時代にお茶や製粉技術など、中国の優れた文化や技術を日本に伝え、わが国の産業・文化の発展に尽くした聖一国師が残された功績を地域資源とし、官民連携で顕彰事業を進めるとともに、所縁のある国内関係都市間の交流を図る。

【第2章】総合戦略の評価

1次評価結果（H29年3月末時点）

[成果の状況]

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
指標で 表す成果	基本 目標	市区町村魅力度 ランキング (1,000市区町村中)	27	85位 (25年度)	80位	102位	—	—
			28		82位	109位	—	—
			29		70位			
			30		67位			
			31		67位以上			
		関連施設・イベント 入込客数	27	8,932千人 (22年-25 年の平均)	9,060千人	—	—	—
			28		9,188千人	—	—	—
			29		9,316千人			
			30		9,443千人			
			31		9,443千人 以上			
		歴史や文化を身近に感 じることができるまち だと思える市民の割合	27	63.8% (26年度)	65.00%	66.9%	102.9%	a
			28		66.30%	64.3%	97.1%	a
			29		67.55%			
			30		68.80%			
			31		68.80% 以上			
	K P I	中心市街地の賑わいや 魅力が増したと感ずる 市民の割合	27	静岡46.5% 清水7.0% (25年度)	静岡 47.4% 清水7.8%	—	—	—
			28		静岡 48.3% 清水8.5%	—	—	—
			29		静岡 49.2% 清水9.3%			
			30		静岡50% 清水10%			
			31		静岡50% 以上 清水10% 以上			
関連施設・イベント 入込客数(駿府城公園、 静岡まつり等)		27	2,116千人 (22年-25 年の平均)	2,169千人	2,195千人	101.2%	a	
		28		2,222千人	2,252千人	101.4%	a	
		29		2,275千人				
		30		2,330千人				
		31		2,330千人 以上				
J R静岡駅北口地下 広場「喫茶一茶」 利用者数		27	39.8千人 (27年度)	—	44.4千人	—	—	
		28		42千人	50.3千人	119.7%	s	
		29		44千人				
		30		46千人				
		31		46千人 以上				

## 【第2章】総合戦略の評価

指標以外の 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駿府城公園及びその周辺における桜の総本数では、平成28年度の目標795本に対し、807本だった。</li> <li>・ 芸術文化事業来場者数【4年で延べ1,121,400人】（人／年）では、平成28年度の目標284,400人に対し、384,532人だった。</li> <li>・ 平成29年2月から3月にかけての31日間で「駿河東海道おんぱく2017」を開催し、本市の魅力盛り込んだ観光体験プログラムを実施した。期間中、60プログラムを延べ130回開催し、1,296人が参加した。その様子がテレビ、新聞等で報道され、市内外へプロモーションすることができた。</li> <li>・ 駿府城公園発掘見える化事業を積極的に情報発信し、テレビ22回、新聞44回、ラジオ・雑誌・ネットニュース15回メディアに取り上げられた。</li> <li>・ 「400+プロジェクト」として、子どもを対象に家康公や静岡市への愛着や誇りを醸成する目的で、体験型イベント「子ども徳川みらい学会」を開催し、3日間で5,440人が参加した。</li> <li>・ 家康公検定継承事業としてより広い市民を対象に実施した参加型事業「家康公チャレンジ」には、小学校単位で取り組み、回答を提出した2校のほかにも授業に取り入れて活用したという報告もあった。</li> <li>・ 駿府城公園の発掘調査現場において、平成28年8月～平成29年3月の間に48,664人の見学者が訪れ、歴史的価値を多くの人に伝えることができた。</li> <li>・ 「駿府家康囲碁まつり」では参加者の約1割が県外からの参加者であり、市民の文化力の向上のほかMICEの推進に効果を発揮した。</li> </ul>
-------------	--

※評価基準〔s : 105%以上、a : 95%以上 105%未満、b : 85%以上 95%未満、c : 70%以上 85%未満、d : 70%未満〕

### [総合評価]

評価	A〔重点事業の目的が達成されている〕
理由	<p>「発掘調査見える化」では、広報課との連携によるものも含め多くのメディアに周知したことで、53パーセントが県外からの入場者となる（きゃっしる入場者への簡易アンケート）など、市内だけでなく県外から集客を図ることができた。</p> <p>また、「400+プロジェクト」として、家康公検定継承事業「家康公チャレンジ」や、NHK大河ドラマで今川義元公を演じた春風亭昇太氏を招いてのトークショーなどの実施により、歴史に興味がある人だけでなく、小中学生などより広い市民へと門戸を広げ、歴史に触れる機会を増やすことで、本市の歴史文化を発信し、関心喚起を図ることができた。</p> <p>駿府城公園再整備事業では、発掘調査、支障物件撤去・移設に併せて、寄附募集、駿府城公園「青空カフェ」の実施により官民協働で進めている。</p>

## 2次評価結果

### ◆重点事業評価

[総合評価]

評価	A〔重点事業の目的が達成されている〕
総括	<p>市としての独自性が出ていないものが多かった中で、本事業は主体的に動いていること、駿府城を中心に歴史文化拠点という新たな観光名所を作ろうと、様々な事業を実施していることなどから、重点事業の目的が達成されていると評価した。</p> <p>歴史を認識すると自分のまちを自慢したくなる。まちに誇りを持つことができる。静岡市を誇らしく語れる環境づくりこそ交流人口の増加への鍵となる。</p> <p>今後、予算がかかる事業もあることから費用対効果を慎重に検討しながら、歴史を静岡市固有の地域資源として積極的に事業展開いただきたい。</p>

### ◆重点事業

[重点事業に対する評価・意見]

<p>(情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市は暮らしやすく、魅力的な街で、静岡愛にあふれている方が多いのだが、外からあまり認識されていない。静岡市の弱点は、外へのアピール不足である。</li> <li>・市外から見ると観光地としてはまいちという評価。武家と桜は相性が良いが、桜をどうやって使うのか。花より団子というように、桜だけでなく、美味しいものが食べられてお酒が飲めてということも、一緒に考えていただきたい。</li> </ul> <p>(事業の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駿府城の発掘の見える化は、参加者を考古学者にしてしまうくらいの勢いで楽しんでいる。よく情報を発信しており、ニュースにもなるし、費用対効果が課題ではあるが、このことを駿府城再建への合意形成にどのようにつながられるのかが問題であり、知恵と工夫のしどころである。</li> <li>・歴史を認識すると自分のまちを自慢したくなる。自慢したくなるということは、まちに誇りを持つことができる。自らの暮らすまちのことを誇らしく語ることが、まちづくりの究極と考えている。誇らしく、自慢できれば、交流人口が増えるのではという期待感が持てる。</li> <li>・これまでの事業が、市としての独自性が出ていないものが多かった中で、この事業は主体的に動いている。見える化は効果が出ている。</li> </ul>
--



### ◆今後の方向性

[重点事業に対する今後の方向性について]

- ・ 歴史文化施設は、家康公のみに特化することなく、登呂遺跡、白村江の戦い、聖一国師、今川義元公、幕末から明治維新の舞台となった静岡市などにも着目されたい。縄文・弥生時代からの遺跡がこれほど完成型で残っているまちは少ないのではないかと。白村江の戦いは日本書紀に一行ではあるが記録が残っている。歴史をもっと掘り起こして、静岡市の自慢の種にしていきたい。
- ・ Aプラスとしたいくらい。これまでの事業が、市としての独自性が出ていないものが多かった中で、この事業は主体的に動いている。見える化は効果が出ている。費用対効果は慎重に検討してもらいたい。【再掲】
- ・ 市外から見ると観光地としてはいまいちという評価。武家と桜は相性が良いが、桜をどうやって使うのか。花より団子というように、桜だけでなく、美味しいものが食べられてお酒が飲めてということも、一緒に考えてほしい。【再掲】
- ・ 駿府城を中心にした歴史文化拠点事業に市民の理解がどの程度進んでいるか留意してほしい。予算もこれから掛かっていくものなので、その点は丁寧に進めていただきたい。
- ・ 公園整備については、桜の季節は良いが、普段から市民がくつろげる設計も考えて欲しい。市民がチャレンジショップを出せるような公園の設計や、ヨーロッパのように可動式椅子を自由に使って、思い思いにくつろぐことができるようになるとうい。市民が日常から楽しめるような仕掛けも別の視点から必要である。

### ◆1次評価結果に対する意見

- ・ Aプラスとしたいくらい。これまでの事業が、市としての独自性が出ていないものが多かった中で、この事業は主体的に動いている。見える化は効果が出ている。費用対効果は慎重に検討してもらいたい。【再掲】
- ・ 市にとって重要な歴史的資産であり、人を呼び込むためにもまちの魅力を高める意味はある。そこに手を打っていく必要があるし、内容も良い方向にいつているのではないかと。
- ・ 市外から見ると観光地としてはいまいちという評価。武家と桜は相性が良いが、桜をどうやって使うのか。花より団子というように、桜だけでなく、美味しいものが食べられてお酒が飲めてということも、一緒に考えてほしい。【再掲】
- ・ 駿府城を中心に歴史文化拠点という新たな観光名所を作ろうと、様々な事業を実施しているので評価できる。
- ・ 駿府城を中心にした歴史文化拠点事業に市民の理解がどの程度進んでいるか留意してほしい。予算もこれから掛かっていくものなので、その点は丁寧に進めていただきたい。【再掲】



- ・公園整備については、桜の季節は良いが、普段から市民がくつろげる設計も考えて欲しい。市民がチャレンジショップを出せるような公園の設計や、ヨーロッパのように可動式椅子を自由に使って、思い思いくつろぐことができるようになるとうい。市民が日常から楽しめるような仕掛けも別の視点から必要である。【再掲】

重点事業名「観光交流活性化推進事業」

[評価対象事業の体系]

(戦略)

(重点事業名)

(事業名)



## 【第2章】総合戦略の評価

### [事業]

事業名	目的
官民連携インバウンド誘致推進事業	訪日外国人が急増する機会を逃すことなく、官民が連携し、積極的にインバウンドに取り組んでいくため、オール静岡の体制による「オール静岡インバウンド誘致推進会議」を平成27年6月に立ち上げた。総会、幹事会の開催や情報共有を図り事業レベルでの連携促進を進める。
清水港客船誘致の推進	清水港に客船を誘致することで、①インバウンドによる観光振興に繋げる②クルーズ船を通じて多くの外国人観光客が訪れることによる地域の国際化や文化交流を促進させる③消費拡大により、地域経済を活性化させる。
有度山フレンドシップ協定の推進	平成24年9月22日に、静岡県立美術館、静岡県舞台芸術センター(SPAC)、株式会社日本平ホテルの3施設が、日本平地域の観光における魅力向上及び静岡県が目指す「ふじのくに芸術回廊」の実現に向け、相互に連携して効果的な情報発信をするべく有度山フレンドシップ協定を締結したことを受け、平成25年4月2日に、久能山東照宮及び静岡市立日本平動物園が新たに参加し有度山フレンドシップ協定を締結した。 景勝地で有名な有度山地域に立地する各施設が官民の垣根を超えて相互に連携・協力し、有度山地域の認知度を高め、魅力発信、誘客を図る。
MICE 誘致の推進(キーパーソン訪問、招聘事業)	本市の魅力诉求するとともに開催地に係るニーズを把握するため、開催地に係るキーパーソンを訪問する。 誘致の実現可能性が高い案件について、会場等の現地確認や、関係者を招いての歓迎会を実施するなど、より緊密な関係を構築するためキーパーソンを本市に招請する。
静岡市都市認知度向上事業	首都圏のメディア等を活用した情報発信を行い、本市のプレゼンスを高め、交流人口の増加を図る。
日本平公園整備事業	名勝日本平の特性を活かし、市民の憩いの場のみならず観光や国際交流など幅広い活動の場を提供する本市のシンボル公園として整備を行う。
東京オリンピック・パラリンピックメダルケース等提案事業	本市地場産業の世界に向けた情報発信と業界活性化を目的に、伝統工芸技術である駿河蒔絵を施した駿河漆器によるメダルケースを開発し2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの採用を目指す。 これらの提案活動等を行うことで、業界振興はもとより本市伝統工芸のファンを創出し、インバウンドや観光客等の誘致につなげていく。
マチナカお買い物マップ作成配布事業	外国人の観光客や来街者は増加傾向にある中で、観光分野においては、台湾・韓国・タイを重点に海外プロモーション実施や、外国人向けの観光マップを整備しているものの、中心市街地での買物や飲食に関する情報提供が充分なされていない現状があったため、静岡・清水の中心市街地へ観光・ビジネス等で来街する外国人を対象に、本市の買い物情報等の提供を行い、まちなかでの消費を喚起し、商業振興を図る。
静岡都市圏広域DMO推進事業	静岡県中部・志太榛原地域連携DMOの形成について、多様な関係者との連携体制の構築及び広域観光の推進による地域経済の活性化を円滑に推進する。
ラグビーワールドカップ合宿等誘致事業	ラグビーを通じたスポーツ振興と地域の活性化のほか、関連イベントの開催により、市民のラグビー熱、認知度の向上を図る。また、本市の魅力発信と人的・経済的・文化的等の持続的な交流の発展契機とし、交流人口の拡大を図るとともに地域の活性化を図る。
オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業	2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致・受入れ及び交流事業等を実施することで市民のスポーツに対する関心を喚起するとともにジュニア育成機会を創出する。 また、本市の魅力発信と人的・経済的・文化的等の持続的な交流の発展契機とし、交流人口の拡大を図るとともに地域の活性化を図る。
「ホビーのまち静岡」推進事業【再掲】	市の主要な地場産業であるプラモデル業界の集積を活かし「ホビーのまち静岡」として国内外へ情報発信することで市のブランド化及び地域経済の活性化を図る。
ホビーショー開催補助事業	本市の主要な地場産品であるプラスチックモデル製品等の展示会等を開催する事業を支援することにより、模型産業の振興及び地域経済の活性化、並びに市のブランド化を図り、本市の存在感を高め、交流人口の増加を図る。

【第2章】総合戦略の評価

1次評価結果 (H29年3月末時点)

[成果の状況]

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
指標で 表す成果	基本目標	市区町村魅力度 ランキング (1,000市区町村中)	27	85位 (25年度)	80位	102位	—	—
			28		82位	109位	—	—
			29		70位			
			30		67位			
			31		67位以上			
		関連施設・イベント 入込客数	27	8,932千人 (22-25年 の平均)	9,060千人	—	—	—
			28		9,188千人	—	—	—
			29		9,316千人			
			30		9,443千人			
			31		9,443千人 以上			
		ぜひまた訪れたいと 思う来訪者の割合	27	56.9% (26年度)	57.9%	—	—	—
			28		59.0%	—	—	—
			29		60.0%			
			30		61.0%			
			31		61.0% 以上			
	K P I	中心市街地の賑わいや 魅力が増したと感じる 市民の割合	27	静岡46.5% 清水7.0% (25年度)	静岡 47.4% 清水7.8%	—	—	—
			28		静岡 48.3% 清水8.5%	—	—	—
			29		静岡 49.2% 清水9.3%			
			30		静岡50% 清水10%			
			31		静岡50% 以上 清水10% 以上			
関連施設・イベント 入込客数(駿府城公園、 静岡まつり等)		27	2,116千人 (22-25年 の平均)	2,169千人	2,195千人	101.2%	a	
		28		2,222千人	2,252千人	101.4%	a	
		29		2,275千人				
		30		2,330千人				
		31		2,330千人 以上				
関連施設・イベント 入込客数(静岡ホビー ショー・ホビースクウ ェア等)		27	212千人 (22-25年 の平均)	216千人	239千人	110.6%	s	
		28		243千人	258千人	106.1%	s	
		29		247千人				
		30		252千人				
		31		252千人 以上				

	区分	指標名	年度	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価	
指標で 表す成果	K P I	外国人延べ宿泊者数	27	100千人 (27年度)	28千人	104,028人	378.3%	s	
			28		120千人	114,710人	95.6%	a	
			29		140千人				
			30		160千人				
			31		160千人 以上				
		観光・ブランド産業 市内就業者数	27	50.8千人 (26年度)	51.8千人	—	—	—	—
			28		52.7千人	—	—	—	—
			29		53.7千人				
			30		54.6千人				
			31		54.6千人 以上				
		日本平・三保松原 観光入込客数	27	2,499千人 (22-25年 度の平均)	2,523千人	2,588千人	102.0%	a	
			28		2,547千人	2,203千人	86.5%	b	
			29		2,572千人				
			30		2,597千人				
			31		2,597千人 以上				
指標以外の 成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連施設・イベント入込客数（清水みなと祭り、客船歓迎事業等）では、平成28年度の目標5,663千人に対し、5,512千人だった。</li> <li>・ 客船等寄港数では、平成28年度の目標16隻に対し、19隻だった。</li> <li>・ 清水の中心市街地の歩行者通行量では、平成28年度の目標22,036人に対し、25,670人だった。</li> <li>・ 清水の中心市街地の滞在時間（2時間以上の割合）では、平成28年度の目標62.6%に対し、68.1%だった。</li> <li>・ 日本平・三保松原観光入込客数（千人）では、平成28年度の目標2,547千人に対し、2,203千人だった。</li> <li>・ 東京オリンピックにおけるメダルケースの採用に向けた提案では、平成28年度の目標2回に対し、2回だった。</li> <li>・ 東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致に関し、市内施設の視察を兼ねた代表クラスによる合宿実施数は、平成28年度の目標2団体に対し、4団体だった。</li> <li>・ MICE誘致の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>H28.4 「第18回 日本・スペイン・シンポジウム in 静岡」 「第18回 日中韓三カ国環境大臣会合」を誘致・開催</li> <li>H29.7 「将来の課題のための日・オーストリア委員会 第21回会合」を誘致</li> <li>H31.11 医学系国際学会 誘致に向けて交渉中</li> <li>H32.11 科学系国際学会 誘致・開催</li> </ul> </li> </ul>							

<p>指標以外の 成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市への来訪者数 「モバイルWi-Fiルーターの無料レンタルサービス」事業 平成28年度実績1,824台 (当初予定1,500台)</li>   <li>・清水港客船誘致の推進 「①誘致活動」「②歓迎事業」「③広報活動」の3分野に関してワーキンググループを 立ち上げ、それぞれの分野に精通するメンバーを集め、専門的見地から検討を実施した。 その結果、             <ul style="list-style-type: none"> <li>①誘致活動グループでは、富士山に頼り切った誘致活動から、富士山プラスアルファと して体験型観光を売り出していくこととし、誘致ツールとして「清水港体験型観光 メニューブック」を観光協会等と連携して作成することとした。</li> <li>②歓迎事業グループでは、乗船客の心に残りやすい「お見送り」に力を入れていくこと を確認し、「シャボン玉」や「エコバルーン」などのお見送りを試した。H29年度 以降はノベルティ配布やお見送りスタンプカードを導入し、お見送り人数の維持に 努める。</li> <li>③広報活動グループでは、事前の広報が不足していることを課題とし、ポスター作製を これまでの1期制から前期・後期の2期制としたり、デザインも見た人が港に行きた くなるような写真を選ぶよう工夫した。また、これまで自前で白黒印刷していた入港 予定表を印刷業者に発注しカラーで制作するなど、多くの人が客船に興味を持つき っかけづくりを進めた。さらに、アウトバウンド促進のため客船寄港時に、セミナーを 開催するなどした。</li> </ul> </li>   <li>・ラグビーワールドカップ合宿等誘致事業では、市内体育施設や施設利用団体、ホテル 旅館協同組合の協力を得て申請した「公認チームキャンプ地選定プロセス」がラグビー ワールドカップ2019組織委員会による書類審査を通過した。 また、オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業では、現地でのトップセールス等 により、相手国による本市施設の視察を29年度中に実施する内諾を得た。 さらに、事前合宿等の誘致を推進するため、官民で組織する「静岡市東京オリパラ推進 会議準備会」をH29.2月に開催した。</li>   <li>・平成28年8月第12回日本夜景遺産に「日本平」が認定されたことを機に、地域住民、 観光業者が日本平の魅力を発信し、魅力を一層高めることを目的に定期的に夜市(ナイト マーケット)のイベントを開催するようになり、夜間人を日本平に呼び込む取り組み を始めるきっかけとなり、周辺エリアを含めた認知度アップにつながった。</li> </ul>
---------------------	---

※評価基準〔s : 105%以上、a : 95%以上 105%未満、b : 85%以上 95%未満、c : 70%以上 85%未満、d : 70%未満〕

[総合評価]

評価	A〔重点事業の目的が達成されている〕
理由	<p>本市の特色ある地域資源を代表する三保松原、日本平及び南アルプスの魅力向上に向けた各ハード・ソフト各整備事業は概ね計画通りに実施している。成果指標とした「市区町村魅力度ランキング」は目標値を下回ったため、今後も誘客及び来静意欲向上に向けた積極的な広報展開が必要であるが、各事業の実施により施設整備、管理運営、情報発信、体制構築等、受け入れ基盤の整備は着実に進行しており、本市への訪日外国人旅行者を対象とした「モバイル Wi-Fi ルーターの無料レンタルサービス」事業の平成 28 年度実績が予定の 1500 台を大幅に上回る 1,824 台となるなど、本市への来訪者数は増加傾向にある。</p> <p>また、これらの事業推進により、平成 28 年度は「第 18 回日本・スペイン・シンポジウム in 静岡」及び「第 18 回日中韓三カ国環境大臣会合」を誘致・開催できた。更には、これらの開催実績やノウハウ習得により、平成 29 年 7 月には「将来の課題のための日・オーストリア委員会 第 21 回会合」を本市で開催することが予定されており、世界中から人が集まるまちづくりのため、施策の目的は達成されているといえる。</p> <p>「関連施設・イベント入込客数（清水みなと祭り、客船歓迎事業等）」、「客船等寄港数」、「清水の中心市街地の歩行者通行量」、「清水の中心市街地の滞在時間（2 時間以上の割合）」については、ほぼ目標を達成することができた。また、すべての主要事業が計画どおり進んでいる。</p>

2次評価結果

◆重点事業評価

[総合評価]

評価	A〔重点事業の目的が達成されている〕
総括	<p>多くの事業に前向きに進めていること、他自治体との競争の中で勝ち組となっている事業があることなどから、重点事業の目標が達成されていると評価した。</p> <p>国や県と重複する事業がある中で、静岡市をどう出していくか、十分に検討しながら、各事業に取り組んでいただきたい。</p> <p>今後、インバウンドを進める中で、地域によって感情的対立を生む場合もある。そういう対応をどうするのか、また、生活に近いところで、欧米のみならず、アジアから人が来る中で、市民の認識をどうするのか、現場で苦勞する市民や事業者をどうサポートするのかなど、今のうちから位置付けを明確にして事業展開いただきたい。</p>

◆重点事業

[重点事業に対する評価・意見]

<p>(事業の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清水港寄港豪華客船やクルーズの誘致は、民間の誘致委員会が平成初期から頑張ってポートセールスをしてくれた成果。</li> <li>・国際会議の誘致は、民間の地道な活動の結果として現在がある。それらの伝統を効果的に活用すべき。</li> </ul> <p>(事業指標の的確性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心はインバウンド。基本目標、KPIの実績もないので難しい。</li> <li>・静岡市発の情報効果は大きいし、都市イメージも高まる。しかしながら、数値的に、費用対効果の確認は難しいが、静岡市の存在感を際立たせる機会でもあり、重要課題であると考えられる。静岡市には、コンベンションに特化したセクションもあると聞すが、その機能も実績も見えてこない。『『まち』の存在感を高め、交流人口を増やす』という静岡市戦略の施策として、積極的な取組みを望みたい。</li> </ul>
--



◆今後の方向性

[重点事業に対する今後の方向性について]

- ・国際会議や国際競技の誘致には、情報量とともにキーマンへのアプローチがすべてと考えられる。コンベンション担当の情報収集力とともに、ヒューマンネットワークの広がりが必要だとされている。確実な情報を得るためには、具体的目標を持った積極的活動を期待したい。
- ・他自治体に勝たなければいけないものがたくさんある。うまく勝ち組として乗っている客船誘致や国際会議もある。勝たなければいけないものは勝っていただきたい。
- ・夢を語っているものが多いのでうまくいくとよい。
- ・外国人が増えるとお金が落ちるのは嬉しいがコンフリクトも増える。地域によって感情的対立を生む場合もある。そのような対応をどのようにするのか、今のうちから考えていただきたい。
- ・生活に近いところで、欧米のみならず、アジアの方々もたくさん入ってくる。その点で市民の認識をどうするか。現場で苦勞する市民や事業者をどのようにサポートするのが行政の役割となる。今後の事業展開の中で位置づけをしていただきたい。
- ・清水港や日本平は県と重複しているので静岡市だけの方針では難しいこともあろうかと思われるが、その中で、静岡市らしさをどのように出していくか、静岡市特性を十分に検討し、事業展開いただきたい。

◆1次評価結果に対する意見

- ・基本目標で「ぜひまた訪れたいと思う来訪者の割合」が56.9%となっているが、本当にまた来てくれるのか。外国人延べ宿泊客数も、元々宿泊キャパシティが足りていない。民泊の活用がどのくらい検討されているのか気になる。
- ・他自治体に勝たなければいけないものがたくさんある。うまく勝ち組として乗っている客船誘致や国際会議もある。勝たなければいけないものは勝っていただきたい。【再掲】
- ・モバイル Wi-Fi の貸し出しを頑張りたいということだが、アップルSIMも出ており、直接キャリアの電波を使うという時代の変化もすぐに起きてくるのではないか。
- ・中心はインバウンド。基本目標、KPIの実績もないので難しい。夢を語っているものが多いのでうまくいくとよい。【再掲】
- ・外国人が増えるとお金が落ちるのは嬉しいがコンフリクトも増える。地域によって感情的対立を生む場合もある。そのような対応をどのようにするのか、今のうちから考えていただきたい。【再掲】
- ・生活に近いところで、欧米のみならず、アジアの方々もたくさん入ってくる。その点で市民の認識をどのようにするか。現場で苦勞する市民や事業者をどのようにサポートするのが行政の役割となる。今後の事業展開の中で位置づけをしていただきたい。【再掲】

- ・清水港や日本平は県と重複しているので静岡市だけの方針は難しいと思われるが、その中で、静岡市らしさ・個性をどのように出していくかが鍵となる。日本平自体が美しいのではなく、日本平からの眺望が美しいということで「景観百選」に選ばれたと記憶している。旧清水市の頃に「赤い靴の母子像」が建設された。この話は忘れられているが、静岡市清水区が舞台だ。野口雨情の「赤い靴はいていた女の子」のモデルである。歌詞から横浜の波止場に少女像がつくられて有名であるが、その少女「きみ」の生まれた土地は、清水区宮加三であり、静岡市の日本平整備の付加価値として活用は図られないものだろうか。

第1期静岡市政策・施策外部評価委員会委員名簿

委員長	小櫻 義明	(静岡大学 名誉教授)
職務代理者	花井 孝	(地域活性化戦略研究所 所長)
委員	石田 徹	(株式会社 アイエイアイ 代表取締役社長)
	井上 美千子	(公募委員)
	狩野 美知子	(静岡大学 人文社会科学部 准教授)
	小谷 順子	(静岡大学 人文社会科学部 教授)
	柴田 晃芳	(常葉大学 法学部 准教授)
	鈴木 藤男	(株式会社 悠々倶楽部 取締役)
	牧田 晃子	(牧田法律事務所 弁護士)

※委員の所属は平成29年9月時点のものです。

審議経緯

第15回委員会	平成29年 5月24日	評価対象施策の選定・評価の進め方など
第16回委員会	平成29年 6月23日	施策評価 (静岡市ならではの資源を活用したシティプロモーションの推進)
	平成29年 6月30日	〃 (若者や女性、高齢者、障がい者の雇用機会の創出)
第17回委員会	平成29年 7月 6日	〃 (未来へ向けた教育環境の整備)
	平成29年 7月21日	〃 (清水港ウォーターフロントの賑わいづくり)
第18回委員会	平成29年 7月12日	〃 (需要創出による「お茶のまち静岡市」の推進)
	平成29年 7月28日	〃 (歩いて楽しめる都市空間の創造)
第19回委員会	平成29年 7月19日	〃 (地域で支え合う体制の強化)
	平成29年 7月31日	〃 (廃棄物のさらなる減量に向けた協働の推進)
第20回委員会	平成29年 7月26日	総合戦略評価 (交付金対象事業)
	平成29年 8月 2日	〃 (「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす)
第21回委員会	平成29年 9月26日	評価結果の報告



第3次静岡市総合計画・静岡市総合戦略

評価報告書

平成29年9月

静岡市政策・施策外部評価委員会